

街道を歩く



東海道：04日永四丁目ー采女一大谷（鈴鹿市）

実蓮寺（普光山証明院、浄土鎮西派）

本尊阿弥作阿弥陀如来像。
大永2年(1522)伏見皇女今日姫が入寺し
尼御所と称せられた「
大正11年(1922)宮内省が調査、皇室御
内緒寺院となる。
境内に滝川一益の母堂の墓と云われる
五輪塔がある。



日永の追分

東海道と伊勢街道の分岐点”間の宿”
とも云われ鳥居中心に旅籠が軒を並べ
茶店も多かったという。
安永3年(1774)久居出身の渡辺六兵衛
が街道から伊勢神宮が遥拝できるよう
にと鳥居を建てる。



おごそ

小許曾神社（祭神天宇受売命他）

延喜5年(905)式内神社神名帳に
記載される由緒ある神社。
明治元年明治天皇東巡の時勅使
より幣帛料賜る。
農作物の吉凶を占う「粥試し神事」
で知られる。



伊勢国分寺址

天平13年(741)聖武天皇の発願により国ごとに
設けられる。
伊勢国の鎮護願って行基が開山したと云われる
戦火に遭い荒廃。東西182m、南北225m。奈良時
代の鬼瓦、軒丸瓦など多数出土。
隣接して鈴鹿市考古学博物館がある。



史蹟 杖衝坂碑

古事記によれば日本尊は伊吹山からの帰途
杖にすがりながらこの坂を越えたという、登るに
つれ「吾が足三重の勾りの如くして甚疲れたり」
とかなり疲労されていたという。（三重の名の由来）
三重の郡家の采女が介抱したことからの地を
采女と言う疲れを癒したという井戸、その上に
常夜燈の台石が残る。

芭蕉句碑

貞享4年(1687)美濃からの帰り坂の途中で荷鞍
を変え落馬したときに詠んだ。
“歩行ならば 杖つき坂を 落馬かな”
の季語のない句の碑が建つ

血塚社

日本武尊が疲労困憊にもかかわらず杖衝坂
を上られ足の血を封じたといわれるところ
祠の奥に碑がある。



[弥次・喜多]

追分の茶屋にて饅頭食い競争で詐欺に遭う
“盗人に追分なれやまんじゅうの
あんのほかなる初尾とられて”



観音禅寺
小許曾神社
願誓寺

[弥次・喜多]さん
これより伊勢街道

観音禅寺（黄檗宗真言派）

本尊 千手観音菩薩像
戦国時代信長の兵火で消失。本尊は
村民が守り無事元文2年(1737)再建される。
山門は四脚門方式、屋根は異国風
「マカ」を上げている。



願誓寺（真宗高田派）

本尊 聖徳太子作といわれる、阿弥陀如来像

